

令和元年度

国際情報高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・学習習慣を確立し学力向上を図るとともに、自ら向上しようとする態度を養う。
- ・基本的生活習慣を確立するとともに、部活動・生徒会活動を一層活発にする。
- ・本校の教育活動を保護者や地域等に積極的に情報発信する。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	・校長は自らの教育方針や教育理念を明らかにして学校経営をすすめている。	A		
	・分掌の設定・分担が適切になされ、学年との連携の下で業務が有機的に機能している。	C		
2 学習指導	・基礎・基本の定着を目指し、工夫した授業を心がけている。	A		
	・学習習慣の確立に向けた指導を適切に行っている。	A		
3 生徒指導	・生徒のモラル(意欲)の向上、自律心の育成を図り、より良い学習環境の維持・向上に努めている。	A		
	・保護者との連携を強化し、問題行動への対処およびその防止に対して適切な指導をすすめている。	A		
	・好ましい人間関係の構築を図り、いじめ問題の未然解決に努めている。	A		
4 進路指導	・生徒の能力・適性を的確に把握し、学年に応じた継続かつ計画的な指導に努めている。	A		
	・保護者との連携を図り、希望進路実現のためのサポート体制を構築している。	A		
5 特別活動等	・生徒会行事や部活動の活性化に努め、そのための環境整備を行っている。	A		
	・生徒指導・進路指導・人権教育・総合的な学習(探究)の時間等に関連づけ、効果的に指導している。	B		
6 学校図書館	・LHRや教科をはじめ本を読む機会を増やし、読書意欲を醸成するよう努めている。	A		
	・図書館広報を充実させ、図書館の利用促進を図っている。	A		
7 保健・安全指導	・教科の学習をはじめ特別活動等、教育活動全体を通じて体力の向上と保健意識の高揚に努めている。	A		
	・定期健康診断や日常指導の下に生徒が自ら行う健康管理と安全意識の改善に努めている。	A		
8 人権教育	・誰もが「かけがえない存在である」という認識の定着を図っている。	A		
	・国際理解・異文化理解を通じて人権問題について正しい理解と認識を培っている。	A		
9 環境教育	・教科指導や特別活動において環境に配慮した生き方や価値観の定着を図っている。	A		
	・日常の清掃活動、ゴミの分別およびリサイクルなどの環境整備実践活動に努めている。	B		
10 事務・管理	・施設・設備の安全管理に努め、定期的な点検を行っている。	A		
	・校内LANの活用を図り、合理的な事務管理を進めている。	A		
11 その他 学校の取り組み	・授業等を中心に、生徒のコミュニケーション能力の向上を図っている。	A		
	・PTA活動の進展に努め、開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる。	A		

(注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた評価項目の公表

10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価)A B C Dの4段階評価で示す。

3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)A B C Dの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等により構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、

あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。

学校のURL : <http://www.kokujo-h.shiga-ec.ed.jp/>